

2023年度第2回ルール委員会議事録

開催日時:2023年12月17日(日)10:00~16:00

開催場所:東京夢の島マリーナ&オンライン(ZOOM)

参加者:(現地)増田委員長、加藤副委員長、藤井副委員長、古川委員、岡部委員、木内委員、
日下部委員、高野委員、三輪委員、松原委員、山口委員、浅田委員、大村委員、
内海委員

(オンライン) 石川(雅)委員、吉本委員、岡嶋委員、宮崎委員、石川(彰)委員

※順不同計19名

増田委員長挨拶

1. <審議>JSAF 規程の改定(国スポ名称変更対応) 増田委員長

「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」へ変更されたことに対応するために
JSAF 規程 5.4 中の大会名を変更するもの。

→満場一致で提案どおり承認された。

2. <協議>小委員会・WG 活動状況

2.1. ジャッジ小委員会 古川小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

NJA 新規認定講習会を2024/3/23-24に東京夢の島マリーナで開催予定。

NJB 新規認定試験問題がこれまで1種類しかなかったので、もう1種類追加した。これ
までの試験問題も改善した。

WEB 試験問題にも反映し、併せてこれまでの試験問題と新しい試験問題を選択すること
も可能。年明け頃、利用可能になる見込み。

ジャッジクリニックについては、昨年度に引き続き事実認定のトレーニングを実施す
る。今年度は新しい取り組みとして、大会での Google ドライブなどのオンラインスト
レージの利用や、RRS.org の使い方についても取り組む。

→RRS.org は単なる使い方の説明だけでなく、実際に判決を書いたりするなどを実践
する方がより良いと思うので、検討してもらいたい。

B 級ジャッジのステップアップクリニックも昨年度に引き続き実施予定。

Q&A サービスは WS から公開されているものは対応済み。

ケースブックの翻訳誤りなどについて、年明け以降に対応予定。

カイトボードの大会へジャッジを派遣する予定であったが、カイトからウイングフォ
イルへの移行が進んでいることなどから、対応できていない。

→次年度以降の対応について、今後、検討が必要。

2.2. アンパイア小委員会 岡部副委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

アンパイア制のレースイベントの実施報告がなされた。

一部、中止された大会もあったが、かなり盛んに実施された。チームレース全日本など
参加希望が多く、参加調整が必要な大会もあった。

大会に併せて、クリニックや講習会を開催したが、参加者からは大変好評であった。

来年3月にIUセミナーを実施する予定。日本人3名が受講予定。聴講生も募集予定。

NU 新規認定講習は、受講生の準備が間に合わないことから今年は実施しないが、来年
のチームレースの大会にて講習会を実施する予定。

更新講習は昨年度までに終了しており、更新の意思のある方は全員完了している。

2.3. IJIU 育成小委員会 増田小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

2年間の目標（IJ/IU セミナーの合格者を輩出する）に対して、今年度ソウルで開催されたIJセミナーに合格者1名（吉本委員）。

IU セミナーを2024年3月に招致に成功し、日本人3名が受講予定。

IJ セミナーへの参加支援について、1名から補助希望があり、補助を実施した。

IJIU 申請者向け手引については、WS から来年2月に公表されるRQCを反映したうえで、WEBにて公開する予定

IJIU 推薦基準について、3月のRRC全体会議にて改定案を提案する予定。推薦基準の大会の経験について、現在は各大会名が個別に指定されているが、参加艇数などの大会の要件を定める形に変更したい。

国内の国際大会への海外NJの渡航費支援について、EOW2023に韓国及び中国から1名ずつNJを招聘し、旅費の補助を実施した。（EOW2024においても実施予定）

国内の国際大会への日本人IJ候補者の派遣として、EOW2023において公募し3名をOAに推薦した、推薦した2名の日本人NJのCoIが問題となった。

選考小委員会にて、2名のCoIを把握していたが、コントロールラブルと判断して推薦。結果的に審問でのCoI回避だけでなく、海面へのアサインメントにも大きな制約が生じた。

2024/5に開催予定の第1回アジア・オセアニア420選手権大会にIJ1名を推薦。今後、日本人NJ枠が与えられれば公募する予定。

EOW2024への参加者の公募を開始した。2024/3までに選考してOAに推薦する予定。パリ五輪のジュリーに田中委員がアサインされた。

2.4. 外洋規則小委員会 日下部小委員長

資料に基づき、活動内容が説明された、概要は次のとおり。

外洋規則2009の改廃案作成、DP基準に関する課題提起。

外洋規則2009の検討には、協議事項にする前提として、外洋系の関係者からも意見等を聴取することが必要との意見あり関係機会を生かした対応する。

クラブレースへ出向き支援は、外洋東海の協力を得て来年5月頃の実施に向けて企画案等を準備中。

外洋艇レースの支援について、外洋ダブルス日本選手権2024の開催に協力していく。

RRS付則KG、LGと実例とのギャップを分析し、主催団体向けに資料を作成予定。

外洋艇合同委員会を2024年2月に福岡で開催予定。

外洋ダブルス日本選手権2023にて、試行規則DRが適用されている。試行規則DRを適用する場合には、WSにフィードバックが必要なので留意すること。

試行規則DRには一部誤訳があるので、規程管理小委員会にて対応予定であり動向を注視すること。

2.5. 規程管理小委員会 藤井小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

試行規則21-01「代替スタート・ペナルティー」、各国連盟または独立パネルの裁決に対する異議申し立て（規定35E章）は、現在、作業中。

2023.1.1のRRS緊急改定に対応した、正誤表-10を公開済み。正誤表-10の公開後に判明した表示エラーについては、現在、「電子版正誤表-1」として公開済み。（アプリの更新には費用が掛かるため、他の修正と併せて実施する）

→RRS アプリの改定について、時間が掛かるのであれば、アプリ内にルール委員会ホームページへのリンクにより対応できないか？との質問があり、技術的に難しくないとと思われるので、業者に問い合わせを試みることとなった。

2023年のWS年次総会までのSubmissions等の情報がWSホームページに公開されているが、第5章が大きく変更されることが予想される。

次期RRS改定の翻訳に向けて、現行の翻訳課題の整理を事前に実施したいので、各委員による活発な意見をお願いしたい。

総務委員会が中心となって利益相反規程の改定（レースオフィシャルズの利益相反管理）が検討されているので、連携・対応していく。（NJNU規程など関連規程の改定や運用方法の検討が必要。

→「利益相反管理委員会」等にて、Colを判断する方法も考えられるが、現実的には、Colを申告することを義務付けることが有効ではないか。

2.6.普及小委員会 加藤小委員長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

ルール検定制度について概要が説明された。

レベル1～6の段階とし、レベル1～4（初級～中級レベル）はオンライン試験のみとし、レベル5～6（上級）は講習会+試験としたい。

次年度に予算を計上し、2025年の運用開始を目指したい。

→検定はいつでも何度でも受験できると、そんなに努力しなくとも根気よく受験を繰り返すことにより、誰でも合格できてしまい、達成感という目的が達成できないかもしれないので、何らかの対策（再受験するためには一定期間空けることが必要など）が必要と思われる。

バッジテストのように大会参加の要件になるとステータスが上がるのでは？

ルール講習会は昨年度と同様にオンライン講習会を実施する。昨年度は無料としたが、何人受講したかもよく分からず、評価が難しくなってしまったので、有料（500円）とし、1件の申込で複数の受講は不可とする。

今年度は対面講習会にも力を入れたい。

2.7.NJNU実績管理システムWG 加藤WG長

資料に基づき活動内容が説明され、質疑が行われた。概要は次のとおり。

本事業は、新情報プラットフォーム開発の中で進めることとなったため、本年度計上していた開発費の予算は、1次補正予算にて減額した。

12/19に新情報プラットフォーム開発チームのヒアリングが実施される予定。

3.<報告>WS年次総会_IJSC&IJSC 増田委員長

2023年11月に、スペインのマラガで開催されたWS年次総会のIJSCおよびIUSCの報告が行われた。

<IJSCについて>

資格の更新条件が改定され、来年2月に公開される予定。

新規認定試験のオンライン化が検討されているが、セミナー会場（試験監督官付）での受験が前提。その目的は、多くの主要大会で判決文作成がオンライン化され手書きすることは殆ど無い実態に試験方法を合わせること。

IJレポート数は、2021年には2019年比で約1/3に減少していたが、2023年は2019年まで回復。

提出されたIJレポート（2023年は250件）のうち、誤入力などにより担当委員（ボランティア）によるメールでの対応が必要であったレポートが43%、その結果プラット

フォーム技術者（契約）による修正が必要であったレポートは 36%。担当委員の過負荷は従来から認識されていた課題だが、解決策が見つかっていない。JSAF 会員プラットフォームの運用においても覚悟しておくべき。

次期 2024RRS 改訂時には、第 5 章の構成を一新する Submission 022-23 を IJSC として support すると決定するなど、大幅なものになるとの印象。

<IUSC について>今津副委員長欠席のため、報告書にて確認。

IU セミナーの実施状況、IU グルーピングの報告、IU マニュアルの更新作業、IU テストの改革案などについて報告された。

4. <協議>2025RRS 改定に向けて 増田委員長

資料に基づき説明があり、意見交換を行った。概要は次のとおり。

新年度早々には RRS 改定 WG を立ち上げることになると思うので、各委員の協力をお願いしたい。

A 級ジャッジ更新講習会の講習形態（対面／オンライン）について、それぞれメリット・デメリットがあるので、今後、三役にて調整・検討する。オンラインは受講しやすいというメリットもあるが、受講者の理解度の把握や対面ならではのメリットの方が多いのでは？

B 級ジャッジ更新講習会は加盟団体がどちらでも（対面／オンライン）選べるように対応する。

ルールブックの一括販売については、前回同様（冊数に応じた割引あり）に加盟団体等の一括購入事前予約を行う方向で検討する。前はコロナの影響で、加盟団体内で集合する機会が無くなったこともあり、同時に JSAF でも販売したが、今回は、一定期間は JSAF の直販をしない期間が必要ではないか。

アプリを発行するかどうかは、WS の copyright が公表されるのを待つ必要があるが、4 年前と同様に発行する方向でよいのではないか。

5. <協議>「外洋規則2009」改廃の検討について 日下部小委員長

資料に基づき説明があり、意見交換を行った。概要は次のとおり。

「外洋規則 2009」の一部が現行の RRS と重複していたり、齟齬を来している部分があるため、改廃を検討したいのでみなさんの意見を伺いたい。

（以下、主な意見）

まずは、外洋系の団体にて意見交換を行い、方向性を決めてからルール委員会に諮るべきではないか。

廃止しなければまずい状況でなければ、適用されている大会が少ないとしても、廃止する必要は無いのではないか。

定義「フィニッシュ」は、次回 RRS 改定時に「スタート後」が「スタート信号後」に変更される見込みであり、次回 RRS 改定の内容を見て再度検討してもよいのではないか。

6. 事務局からの報告 加藤事務局長

6.1.<報告>スポーツ庁への審判員の推薦の結果について

増田委員長と田中委員が受賞されたとの報告がなされた。

6.2<報告>ジャッジ・アンパイア資格状況など

書面にてジャッジ・アンパイアの資格状況が報告された。

NJA：207 名（男性：197 名、女性：10 名）、NJB：755 名（男性：615 名、女性：140 名）、
NU：26 名（男性：24 名、女性 2 名）

その他に、年齢別／都道府県別の取得状況の一覧が報告された。

7. ケース研究など

7.1.鹿児島特別国体のインシデントについて

鹿児島特別国体のインシデントについて、大会ホームページ（RRS.org）で公開されていた判決文に基づいて意見交換が行われた。

事実認定には図の添付が有用であるとの意見があった。

7.2.ビデオ映像やGPSデータについて

11月のある大会で、SNSでスタート時の動画が公開されていた。

それを根拠にRRS90.3(c)に基づき、RCが自主的に訂正して良いか？

RCが訂正しても良いかもしれないが、セーリング競技の場合は、審問（救済）にて解決の方が良いのではないか。

7.3.裁量ペナルティ適用上の課題について

外洋艇のレース現場では、「NP」、「SP」、[DP]の定義への理解が曖昧で周知、理解促進が必要。特に「DP」について何らかの基準を作成したいと思うが意見を聞きたい。

いろいろなレースに適用される「統一基準」を作るのは難しい。さらに、そもそもDPはその大会のプロテスト委員会が決める責任があるので、「統一基準」は作成すべきではないのではないか。（大会のプロテスト委員会が「統一基準」頼りになってしまう）

個々の大会のOAに方針を決めてもらった上で、その大会のプロテスト委員会がDPポリシーを公開するべきではないか。

7.4.ラジオで「中止」

時間切れのため、次回に持ち越し。

7.5.カイトの絡まりカウント

時間切れのため、次回に持ち越し。

7.6.CoIのコントロールについて

時間切れのため、次回に持ち越し。

最後に藤井副委員長の挨拶で閉会した。

以上